



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：GCC 首脳会議第 11 回諮問会合開催と GCC 中銀設立場所の決定
(5月6日付現地各紙)

5月6日付リヤド紙は、5日にサウジで開催されたGCC首脳会議第11回諮問会合開催について、また、同日付の英字紙アラブニュース紙は上記会合でGCC中央銀行の設立場所がリヤドに決定したことをそれぞれ報じている。概要は以下のとおり。

GCC 首脳会議第 11 回諮問会合 (6日付リヤド紙)

1. 5日、アブドゥッラー国王は、GCC 首脳会議第 11 回諮問会合に出席のため、代表団を率いてサウジを訪問したサバーハ・クウェイト首長、ハマド・カタール首長、ムハンマド・UAE 副大統領兼首相、ファハド・オマーン副首相及びサルマン・バハレーン皇太子をリヤド空軍基地空港で出迎えた。
2. 同日、アブドゥッラー国王はデライーヤ王宮に GCC 首脳及び代表団一行を迎え、GCC 首脳会議第 11 回諮問会合を主催した。サウジ側からは、ナーイフ第二副首相兼内相、サウード外相、サッターム・リヤド州知事代理、ムクリン総合諜報庁長官、アッサーフ財務相が同席した。
3. 会合後、アブドゥッラー国王、GCC 首脳陣及びその一行は昼食を共にし、その後各国代表団はサッターム・リヤド州知事代理の見送りを受けてリヤド空軍基地空港を出発した（ホージャ文化・情報相、ゴサイビ経済企画相、スライスリ運輸相、マトハミー諮問評議会事項担当国務相、アイバーン国務相、GCC 各国大使他同席）。
4. アティーヤ GCC 事務局長記者会見概要
 - (1) GCC 首脳は、スルタン皇太子の外科手術成功及び快復を祝福し、健康と祖国への無事の帰還を願うと述べた。
 - (2) 諮問会合では、パレスチナ問題、UAE 三島問題、イラク情勢、アラブ間和解実現に向けた努力、スーダン問題をはじめとする政治、治安、経済問題について協議した。
 - (3) GCC 間鉄道、電力連携のフォロー等 GCC 合同事業の重要な議題について協議した。電力については、今年クウェイト、サウジ、バハレーン及びカタール間の電力連携事業の第 1 フェーズが開始され、UAE とオマーン間の連携プロジェクトの基礎事業が終了したところである。全電力網を連結する事は GCC にとって大きな成果と言える。また、GCC 諸国間の貿易拡大に寄与する重要なプロジェクトとして、これまでの鉄道網の成果について提出された報告書を検討した。
 - (4) オマーンは合同経済事業を推し進めるために民間部門の役割を活性化することに関する重要な提案を行い、各国首脳は技術委員会の事業に関係する全ての民間部門の連携を決定した。
 - (5) 通貨統合の必要条件を満たすために努力する。中央銀行を設立するための評議会を発

足することの要望がある。通貨統合のタイミングは未だ発表されていないが、GCC 諸国民は評議会に対して期待を抱いている。リヤドに本部を設置する事が決定された通貨評議会は、中央銀行への移行段階の準備を行う。中央銀行は、イスラーム銀行の標準から大きく外れる事はなく、GCC 諸国と発展途上国の関係の質向上のための開発支援を行う事になるだろう。

(6) カタルは GCC の役割の活性化について提案したところ、各国首脳の賛同を得た。カタル提案の骨子は、政治、軍事、治安、経済、その他の分野、また、通貨統合 GCC 合同銀行設立に関連するプロジェクトにわたるものである。既に外相級委員会が結成され、カタルの提案を支持する上で相応しい人物を任命して会合を開催し、今年末にクウェイトで開催される第 30 回首脳会談においてその結果を報告する事になった。

(7) EU との FTA 協議については、GCC 側は理解をもって望んできたが、(人権問題等) 関連のない問題が持ち込まれた。FTA は経済的側面から協議されるべきである。

(8) 各国間、特に米・イラン間の対話は重要であるが、それが諸国の利益を侵すことになってはならない。イランはこれまで何度も核開発は平和利用目的のみであると断言してきており、GCC はそれが事実である事を望む。

(9) GCC 諸国保健相は、豚インフルエンザ対策のため予防措置を採り、各種委員会会合を開催している。

5. GCC 中央銀行設立場所の決定 (6 日付アラブニュース紙)

(1) 5 日、湾岸諸国のリーダーは、域内統合を進める上での鍵となる GCC 中央銀行をサウジの首都リヤドに設立することを決定した。首脳会合終了後、アティーヤ GCC 事務局長は、合意の詳細は後ほど発表されるだろうと述べた。この首脳会合はアブドゥッラー国王が議長を務め、デライーヤ宮殿で開催された。

6. 今回の決定は共通通貨導入を含む通貨同盟の推進に向けての重要なステップとなるものである。アティーヤ事務局長は、「(加盟国間で) 通貨同盟に向けてのタイムテーブルは未だ決定されていない」と述べた。何年もの間、通貨同盟に向けての努力が講じられてきたが、オマーンの(2010 年時点での) 通貨同盟への不参加やクウェイトの通貨バスケット制への移行が影響を与えてきた。GCC 関係者は、2010 年の共通通貨導入を目指していたが、その目標は難しいと考えていた。2008 年 12 月の会合において、GCC 諸国は、共通通貨導入に向けたタイムテーブルを含む通貨評議会の憲章を今年末までに批准する事を目標とした。

7. ジョン・スファキアナシス・SABB チーフエコノミストは、「この決定は、GCC 統合におけるサウジの重要性の証である」と述べた。また、スファキアナシス氏は「サウジは GCC 域内最大の経済国であるのみならず、他の域内国で見られるような飽和状態がない力強い金融部門が存在する国である。今後のチャレンジは、モメンタムを維持しつつ通貨統合や関税調和を進め、そして GCC 中銀の組織的能力を確立する事である」と述べた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799